

平成30年度 岡山県立西大寺高等学校 重点目標

学校経営目標	重点目標と評価			
	新しい時代を生き抜く力を身に付けた生徒の育成－7つの力の育成を核として－ ※ 7つの力とは、「傾聴力」、「発信力」、「状況把握力」、「柔軟性」、「自他肯定力」、「協力する力」、「実行力」をいう。	重点① 授業力のさらなる向上 主体的・対話的で深い学びの実現など、授業力の向上に努める。 計画と評価：各教科での研究授業等の実施及び0JT校内チーム研修の継続とその連携 西高版授業スタンダードの策定とその実践 校外研修等で得た知識・情報の共有		
		重点② キャリア教育の充実 特別活動をはじめとする様々な教育活動をキャリア教育の視点で連携させ、7つの力の育成を一層図る。 計画と評価：「キャリア・ノート」の活用（振り返り・記録の徹底） 校内研修の実施、各種アンケートや生徒自己評価		
該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
①	学力向上委員会	公開授業やOJT校内チーム研修等による研究授業を促進し、主体的・対話的で深い学びを実現し、学力向上に資する授業力の向上を図る。	・OJT校内チーム研修による課題の共有、実践を行う。 ・新学習指導要領を踏まえた授業研究を進め、全体での共有を図る。 ・公開授業・研究授業の成果を校内外に発信する。	・研究授業を実施または参観した教員の割合が90%以上（教員） ・学校教育診断アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のプラス評価の割合が80%以上（生徒）
	教務課	平成34年度から実施される学習指導要領の内容を踏まえ現行内規の見直しを進めていく。	・①学校現状と内規の整合性がとれるように見直しをする。 ・②学習指導要領の改訂に関する情報を提供し、検討すべき箇所を各担当により洗い出していく。	・①を各課に依頼し、現状にあった内規の見直しができる。 ・②学習指導要領の改訂内容を共有し、内規見直しをすべき部分を意識することができる。
	商業科	新学習指導要領を見据え、学力向上を目的とした授業改善（ICTの効果的な活用や情報教育も含めた）を図りながら、授業内容の課題を文書化し共有する。	・研究授業及び公開授業を通し、授業見学を行い、授業づくりに参画する。 ・学期や定期考査ごとに振り返りながら、課題を明らかにし、指導法を研究する。	・各科目指導計画書を、主要科目を中心として作成し、授業内容の課題を共有できる。
	国際情報科	岡山大学留学生との交流会、イングリッシュキャンプ、校内外のスピーチコンテストなどの行事に向けて生徒が主体的に課題を見つけ学ぶ授業を展開する。	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて各行事の評価と改善を行う。 ・各行事の目的と目標を明確に示し、具体的な計画を立てさせる。	・8割以上の生徒が、行事ごとの振り返りと年度末のアンケートに、自らの主体的な取り組みと深い学びを具体的に表現できる。
	1年	基礎学力向上に向け、家庭学習の習慣を定着させる。	・家庭学習の時間を平日2時間、休日3時間確保させる。PDCAサイクルにより、個々の課題を明確にさせる。	・家庭学習2時間以上の割合を60%以上。
	2年	深い学びに繋がるように授業力のさらなる向上を達成することにより、生徒たちが積極的に授業や学習に取り組むようになる。	・お互いの授業を参観し合い、教科内だけでなく教科間でも連携を図りながら授業改善する。 ・考査、実力考査などのテスト前に目標を立て、テスト後に振り返りをさせることによって、自分の学力を把握させる。	・年度の始めと年度の終わりにアンケートをとって、積極的に授業や学習に取り組むようになったと答える生徒が6割を超える。
	3年	一人一人が授業力を磨き、生徒の学力とモチベーションの向上につなげることににより、希望の進路実現のために主体的に考え努力する生徒を育成する。	・学期や考査の後の振り返りをさせ、学力の伸びを確認させる。 ・実力考査や模試の後の分析を丁寧に行い、次に打つべき手をその都度考える。	・進路指導課の年度末のアンケートで、希望の進路実現のために「よく努力した・まあまあ努力した」と回答する生徒が8割を超える。

該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
②	キャリア教育委員会	「キャリア・ノート」の充実・活用を通して、キャリア教育を推進する。	・職員研修を実施したり、「キャリア教育の手引き」を改訂したりすることで、キャリア教育推進に寄与する。 ・総合的な学習の時間の内容やその他の教育活動を見直す。また、生徒への情報提供を積極的に行う。	・総合的な学習の時間の評価やキャリア教育の年間計画等が見直されている。 ・職員研修1回以上、情報提供2回以上。 ・インターシップ等を体験した生徒の割合が80%以上(3年、2年)
	総務課	「キャリア・ノート」の活用を進め、コミュニケーション能力の育成・伸長を図る。	・7つの力の育成を意識しながら、コミュニケーション能力育成プログラムやCCT等様々な活動の実施を補助する。 ・修学旅行や課題研究等様々な場面をとらえ、生徒が積極的に発信する場面の設定を補助する。	・プログラム実施前後のアンケートで、肯定的評価の割合が増加する。
	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人として必要な資質を身に付けるための援助を行う。	・TPOに応じた態度の醸成を通じて、社会的自立に必要な情況把握力・傾聴力を向上させる。 ・社会貢献活動を通じて、協力する力・自他肯定力・柔軟性の向上をはかる。 ・生徒会活動などの特別活動や部活動を充実させ、心身の健全な成長を促しながら、発信力・実行力を向上させる。	・制服の着こなしや頭髮などの身嗜みを、ルールやマナーを意識して整えることができる。 ・積極的に挨拶をすることができる。 ・特別活動や課外活動に能動的に参加している。
	進路指導課	キャリア教育委員会や英語科と連携して新たな入試制度への対応を始めるとともに、現在の在校生の望ましい進路を保障する。	・『進路便り』、CCT、保護者説明会等を利用して、新入試制度のしくみや日程について生徒・保護者に周知させる。 ・各学年のそれぞれの段階で取り組まなければならない進路課題を意識させ、卒業まで粘り強く進路実現に向けて頑張り抜く生徒を増やす。	・1年生のすべての生徒が新入試制度の方向性（共通テストにおける記述問題の導入・英語外部試験の導入・ポートフォリオ評価の導入）を理解している。 ・3年生、普・国の生徒の83%以上がセンター試験を受験する。3年生商業科の生徒は、進路決定後の欠席率が昨年度よりも減少している。
	図書課	未貸出者数を減らし、貸出冊数を増やすことによって、読書に親しむ態度を育てる。	・ビブリオバトルで本をなかだちとしたコミュニケーションを体験し、読書に親しむ態度を育てる。 ・小論文コーナーの整備・充実を図り、読書への関心を深める。	・29年度未貸出者数は33.7%まで大幅に減少した。本年度は、未貸出者数が30%程度に減少し、図書館に来館する生徒が増加する。
	1年	ライフプランを描き、進路意識の高揚を図る。	・「進路の手引き」、「キャリア・ノート」を積極的に活用する。 ・あらゆるメディアを活用し、積極的に情報収集・分析をする。	・年度末にアンケートし、進路意識が深まった者が90%以上。
	2年	「キャリア・ノート」を活用し、7つの力を付ける。	・CCTや修学旅行前後の学習、学年集会の時間で、自分の意見や考えを発表する機会、人の発表を聞く機会を増やす。 ・「キャリア・ノート」を活用させ、自分の振り返りを行いながら、7つの力が付けられたか確認させる。	・年度の始めと年度の終わりにアンケートを実施し、自分の力がアップしたと感じる生徒が6割を超える。
	3年	7つの力の育成・伸長を図る。（その中でも実行力に重点を置く）	・「キャリア・ノート」と併せて、スケジュール帳の効果的な使用を促す。 ・スケジュール管理を意識させることで、今何をすべきかを考え、主体的に行動する実行力を伸ばす。	・アンケートの結果、スケジュール帳をしっかりと活用したと答える生徒が50%を超える。
	普通科	キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じた進路意識を持たせ、目標達成のために取り組む力を付けさせる。	進路学習をはじめとするキャリア教育に関わる教育活動やLHR、担任による面接等の機会を利用して、生徒に積極的に働きかける。	キャリア教育委員会や進路指導課など関係する各校務分掌の成果や調査結果を参考に総合的に判断する。
	国際情報科	国際情報科の各行事における生徒の主体的取り組みを「キャリア・ノート」に保存させ、大学入試等で活用できるようにする。	・各行事ごとの振り返り（ポートフォリオ）シートを作成し「キャリア・ノート」に保存させる。 ・各行事ごとに振り返りをさせ、主体的7つの力の伸びを確認させる。	・各行事の取り組みの概要が「キャリア・ノート」に保存されている。
	厚生課	・校内の環境美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 ・悩みを持つ生徒が安心して相談できる環境の整備に努める。	・トイレ・教室を重点的に清掃する。 ・長期欠席者・不登校生徒に対して適切に対応する。	・トイレ・教室がきれいになることで教育環境が整備されてる。 ・長期欠席者・不登校生徒が増加しない。